

平成 28 年度 長野県バスケットボール審判技術講習会 ルールテスト

長野県バスケットボール協会審判委員会

次の文章について、正しいものには○を、誤っているものには×を記入しなさい。

1. バスケットの目的は、「自チームのバスケットに得点すること」および「相手チームがボールをコントロールすることや得点することを妨げること」である。

解答 × P9 1.1

2. ノー・チャージ・セミサークルのラインは、ノー・チャージ・セミサークル・エリアの一部である。

解答 ○ P14 2.4.7

3. ボールには、床からボールの最下点までがおよそ 1.80m の高さからコートに落下させたとき、ボールの最高点が 1.20m から 1.40m の間の高さまではむように空気を入れる。

解答 ○ P116 5.5

4. プレイヤーが負傷したとき、そのチームの誰かがチーム・ベンチ・エリアから出てコートに入っても、負傷したプレイヤーがプレイを続けられそうなら手当てを受けたことにはならず引きつづき出場させてもよい。

解答 × P19 5.3 5.5

5. 負傷したプレイヤー、出血したり外傷を負ったりしたプレイヤーあるいは手当てを受けたプレイヤーはすみやかに交代しなければならないが、そのプレイヤーの交代を知らせるためにスコアラーが合図器具を鳴らすよりも前にどちらかのチームがタイム・アウトを請求しそのタイム・アウトの間に手当てが終わったときは、引きつづきプレイをすることができる。

解答 ○ P19 5.6

6. プレイのインタヴァルは次のときに終わる。第 1 ペリオドを始めるジャンプ・ボールで、トス・アップのボールがジャンパーの手に触れたとき。

解答 × P24 9.1

7. オルタネイティング・ポゼション・ルールによるスロー・インは、スロー・インされたボールがコートに触れたときに終わる。

解答 × P28 12.4.2

8. ゲーム・クロックの残り時間が 0.2 秒を表示している状態で、エンド・ラインからのスロー・インが与えられた。スロー・インされたボールを味方のプレイヤーが空中でキャッチし、そのままショットしたボールがゴールを通過したので、2 点の得点が認められた。

解答 × P32 16.2.5.(1)

9. 第 4 ペリオドの最後の 2 分間にタイム・アウトが 3 回残っていても、それぞれのチームには 2 回ずつまでしかタイム・アウトが認められない。

解答 ○ P36 18.2.5

10. 第2ピリオドを始めるスロー・インでボールがコート内のプレイヤーに触れる前にディフェンス側のプレイヤーにファウルが宣せられ、引き続き同じチームにスロー・インが与えられた。このときどちらのチームにも交代は認められるがタイム・アウト認められない。

解答 ○ P183 15.(8)

11. スコアラーが審判に交代の合図を知らせるために合図器具をならした後、交代要員が交代の取り消しを申し出た。審判が交代の合図をする前だったので取り消しを認めた。

解答 × P185 16.(6)

12. アウト・オブ・バウンズのプレイヤーがコート内でボールを持っているプレイヤーのからだに触れたときは、アウト・オブ・バウンズのヴァイオリションである。

解答 × P188 18.(2)

13. ボールを持ったまま床にたおれていたり横たわっていたりすわりこんだりしているプレイヤーが、ボールを持ったままころがったり、立ち上がることはトラヴェリングのヴァイオリションではない。

解答 × P46 25.2.3.(2)

14. 3秒ルールは、ボールがフロント・コート内でチーム・コントロールされているときにだけ適用される。

解答 ○ P191 21.(1)

15. チーム A がバック・コートでボールをコントロールしていたときに、チーム B のプレイヤーが負傷したため審判がゲームを止めた。このときのスロー・インの再開は、バック・コートのアウト・オブ・バウンズでチーム A にボールを与え、8秒は継続してかぞえられる。

解答 × P48 28.1.3.(2)

次の文章について、ショット・クロックの正しい表示を答えなさい。

A4 がショット、パス、あるいは最後のフリースローをした。

16. そのボールがリングに触れたのち、B5 がリバウンドのボールをコントロールした。

解答 ショット・クロックは、24秒にリセットされる。 P194 24.(1)

17. そのボールがリングに触れたのち、どちらかのチームがリバウンドのボールをコントロールする前に B5 が最後に触れてボールがアウト・オブ・バウンズになり、チーム A にスロー・インのボールが与えられることになった。

解答 ショット・クロックは、14秒にリセットされる。 P194 24.(1)

18. そのボールがリングに触れたのち、B5 がリバウンドのボールをコントロールした直後にチーム B にヴァイオリション（アウト・オブ・バウンズも含む）やファウルが宣せられ、チーム A にスロー・インのボールが与えられることになった。

解答 ショット・クロックは、24秒にリセットされる。 P194 24.(1)

19. そのボールがリングに触れたのち、どちらかのチームがリバウンドのボールをコントロールする前にヘルド・ボールが宣せられ、オルタネイティング・ポゼッション・ルールによりチーム A にスロー・インのボールが与えられることになった。

解答 ショット・クロックは、14 秒にリセットされる。 P194 24.(1)

次の文章について、適切な語句を答えなさい。

20. シリンダーの範囲について空欄に入る言葉を答えなさい。

前は、手を普通に上げたときの (イ) の垂直面。

うしろは、(ロ) の垂直面。

両脇は、腕と脚の (ハ) の垂直面。ひじを曲げてよいが、(ニ) を前に突き出したり横に極端に広げたりしてもシリンダーが広がったことにはならない。両足の間隔はプレイヤーの (ホ) によるが、極端な広げかたをしてもシリンダーが広がったことにはならない。

解答 イ：手のひら ロ：尻 ハ：外側 ニ：手や腕 ホ：身長 P55 33.1

次の文章について、正しいものには○を、誤っているものには×を記入しなさい。

21. フィールド・ゴールに対するゴール・テンディングとはショットされたボールがバックボードの表面に触れたあと、ボール全体がリングより高いところにある間に、どちらかのチームのプレイヤーがそのボールに触れることをいう。

解答 ○ P52 31.2.1.(2)

22. ボールをコントロールしていないプレイヤーを防御するときは、防御側プレイヤーは、速さと距離を十分に考慮して位置を占めなければならない。

解答 ○ P58 33.5.(2)

23. 現行では、戦術としてファウルをすることが通常のバスケットボールのプレイとして認められている。すなわち、そのファウルが故意に起こしたものであるかどうかはアンスポーツマンライク・ファウルかどうかを判断する基準にはならず、また、単にボールにプレイしていないというだけではアンスポーツマンライク・ファウルかどうかを判断する基準にはならない。

解答 ○ P213 32.(2)

24. チーム・ファウルに数えるファウル (プレイヤー・ファウル) とは、プレイヤーに記録されるパーソナル・ファウル、テクニカル・ファウル、アンスポーツマンライク・ファウル、ディスクォリファイング・ファウルのことをいう。

解答 ○ P72 41.1.1

25. 審判が誤りに気が付き、審判がゲームを止めるまでの間に認められた得点、経過した競技時間、宣せられたファウルやそのほか起こったすべてのことは無効であり、すべて取り消される。

解答 × P77 44.2.3